

# 遠藤守レポート



## デング熱 対策強化で都に要請

### 危険ドラッグの乱用防止、待機児解消で質疑も



厚生、文教両委員会合同の「連合審査会」でも質問（9月29日）

#### デング熱 検査体制の充実・正確な知識啓発が必要

都議会公明党は9月19日、都議会内で、舛添要一知事に宛てたデング熱の対策強化に関する要望を行いました（写真④）。席上、遠藤守都議は、デング熱を含む蚊を媒介とした感染症を防ぐために、都が蚊の生態に詳しい専門家などを集めてこの日設置した対策会議に触れ、東京五輪を見据え、国と連携して感染症対策に全力を挙げるべきと主張しました。その上で、具体策として、①蚊の駆除方法や発生防止についての対応方針の提示②サーベイランス（調査監視）の強化やウイルス検査体制の充実③デング熱の正確な知識の啓発——を求めました。

応じた梶原洋福祉保健局長は、「公明党の提案を踏まえ、会議の中で対策の強化を検討していく」と応じました。

#### 薬物依存治療の医療機関 増設を

9月26日の厚生委員会で、遠藤守都議は待機児解消対策、危険ドラッグ対策などで質問しました。

危険ドラッグに関する質疑で遠藤都議は、薬物依存症治療のための医療機関の増設を主張。再乱用防止に向けた患者トレーニングや相談拠点である都の精神保健福祉センターの機能強化を訴えました。

#### ◆厚生委 委員長に就任◆

遠藤守都議は10月3日、都議会厚生委員会の委員長に選ばれました。慣例では、向こう1年間努める予定。

就任挨拶で遠藤都議は、「厚生委員会で、少子高齢化など都政の重大課題を議論する。都民の関心も高く、十分議論し成果を残したい」と述べました。